

経済学

インフレーションと失業に関する次の問いに答えよ。なお、解答に当たっては、それぞれの問いで指定された用語を用いるものとし、それぞれ最初に使用した箇所に下線を引くものとする。

(1) フィリップス曲線について説明せよ。

用語：名目賃金、失業率、自然失業率、非自発的失業、物価板フィリップス曲線

(2) 自然失業率仮説について説明せよ。

用語：マネタリスト、貨幣錯覚

(3) 物価板フィリップス曲線を用いて、インフレ供給曲線を導出し、その特徴を述べよ。

用語：オークンの法則

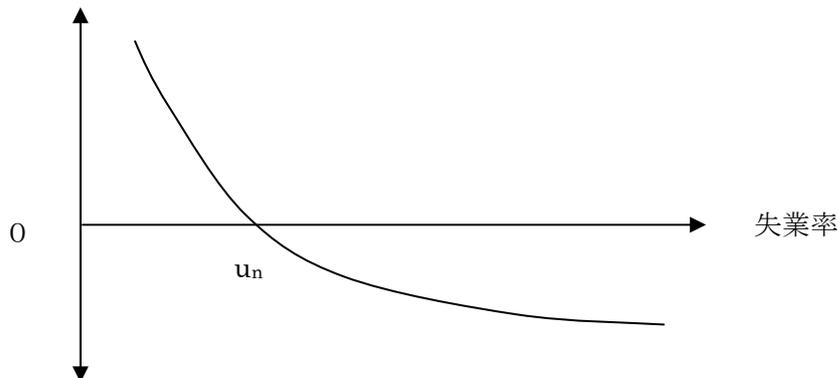
解答例

(1)

フィリップス曲線とは、失業率と、名目賃金上昇率の関係を示したグラフであり、横軸に失業率、縦軸に名目賃金上昇率をとると右下がりの曲線で示すことができる。(図1)

失業率

図1



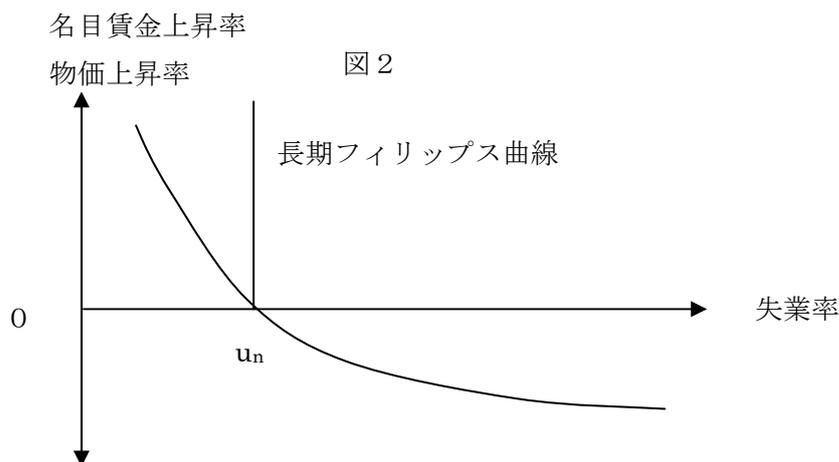
失業率と名目賃金上昇率は密接な関係があることから、このグラフの縦軸の名目賃金上昇率をインフレ率に読み替えたグラフを、物価板フィリップス曲線と呼ぶ。また、マネタリストの自然失業率仮説によると現実の世界では、どんな好況時でも失業率が統計上0になることがないことから、図1の名目賃金上昇率が0になる u_n に当たる失業率を自然失業率といい、ここでは非自発的失業者はおらず摩擦的失業が生じている。

(2)

自然失業率仮説はマネタリストによって唱えられたもので、労働者の貨幣錯覚がなくなる長期においては、失業率は自然失業率水準に落ち着くというものである。

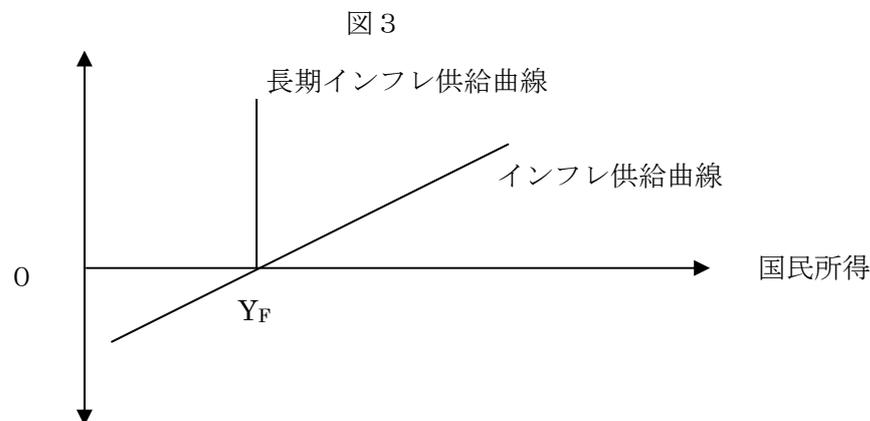
この仮説の下では、インフレ率や名目賃金率が変化しようとも、長期においては失業率は自然失業率水準になるため、長期のフィリップス曲線は自然失業率水準で垂直になる。

(図2)



(3) インフレ供給曲線とはインフレ率と国民所得の間の正の相関関係を示すグラフであり、物価板フィリップス曲線とオークンの法則から導くことができる。オークンの法則とは、失業率と国民所得の間の負の相関関係を示す法則である。つまり、失業率の高くなっているときには、国民所得は低下しており、逆の場合は逆というものである。この関係を先ほどの物価板フィリップス曲線の議論に当てはめると、横軸の失業率が高くなっているときには国民所得が低下していると考えられるので、横軸を国民所得として取った場合、次のような右上がりのグラフとして示すことができる。(図3)

物価上昇率



このインフレ供給曲線であるが、物価板フィリップス曲線で自然失業率となる水準が完全雇用国民所得水準を示し、貨幣錯覚が解消した際には失業率は長期的には自然失業率水準

になることから、長期インフレ供給曲線は完全雇用国民所得水準で垂直となる。このインフレ供給曲線のように、一国のインフレ率と国民所得の関係を捉えると長期的には一国の国民所得は完全雇用国民所得に一致することになる。